
原 著

フレデリック・ショパンの「舟歌」序奏オクターヴの分散奏法

倉尾 孝志

要 約 : フレデリック・ショパンの「舟歌」嬰へ長調 作品 60 には、ごく一部の流派で冒頭の Cis オクターヴをアルペッジョ（分散和音）で演奏する解釈が存在する。この事実は古くからクラシック音楽の愛好家や演奏家などによって知られてきたが、明示的な言及がなされたことは少ない。それゆえに先行研究も存在せず、本稿は当領域の既知の資料を整理したうえで簡単な考察をくわえることを目的とした。

索引用語 : フレデリック・ショパン, 舟歌, アルペッジョ, 分散和音,
ロシア・ピアノズム

The Broken Octave in the Introduction of
Frederic Chopin's Barcarolle op. 60

Takashi Kurao

Abstract : Some pianists in few schools play the first octave as an arpeggio (broken chord) in the introduction of Frederic Chopin's Barcarolle in F-sharp major, op. 60. This fact has been acknowledged by the enthusiasts of classical music or by pianists (mainly the members of the Russian piano school), but nobody has explicitly referred to it. Therefore there are no previous studies. This thesis aims to organize information already known in the research area and to briefly discuss it.

Key words : Frederic Chopin, barcarolle, arpeggio, broken chord, Russian piano school

緒 言

「舟歌」嬰へ長調作品 60 はフレデリック・ショパンによって 1846 年に作曲されたピアノ独奏用作品であり、Discogs (accessed 2026) の録音データベースによれば、のべ 3168 件の音盤数をかぞえる有名曲である¹。この作品は Cis オクターヴ（嬰ハもしくは変ニのオクターヴ）の序奏から始まるが、一部の流派で、このオクターヴをアルペッジョ（分散和音²）で演奏する解釈がみられる。また、この解釈を採用する流派はとりわけロシア周辺地域に集中している。

これはクラシック音楽の愛好家（特にロシア音楽を愛好する者）のあいだでは本稿執筆時点ですでに既知の事実であったが、多くの場合、自明であること、あるいは些末な問題であるとして見過ごされてきたようにおもわれる。それゆえにこの問題への明示的な言及は少なく、先行研究も皆無である。

本稿では、先行研究の一切存在しない当研究分野における既知の情報を整理し、これに簡単な考察を加えることを目的とした。

方 法

分散オクターヴを採用した解釈の分布を調べるために、筆者が個人的に所有する音盤と、インターネット上で視聴することができるものを中心に録音資料を収集した。なお、インターネット上での収集には主に

YouTube による検索をもちいた。旧ソ連の構成国やその周辺のスラヴ地域を中心に、Wikipedia (accessed 2026) による出身地別のリストを用いて総当たりで検証をおこなった³。また、日本人についても同じく Wikipedia のリストを用い、ロシア系ピアニストの影響下で音楽教育を受けた奏者に限って検証をおこなった。さらに、IMSLP (accessed 2026) において閲覧可能な 13 版の楽譜（自筆譜を含む）を参照した。

結 果

調査の結果、分散和音を採用している演奏が計 23 人分確認された⁴。個別の奏者名と録音年は図 1 に示した⁵。このうち、ロシア出身であるか、あるいはロシア系の教師にピアノ演奏を指示したピアニストを太字で表記した。図 1 によれば、23 人のピアニストのうち 21 人がロシア系の奏者であり、地理的・文化的に極端な偏りがみられる。それゆえ、ロシア地域を中心に分散オクターヴを採用する伝統のあることは明白であるようにおもわれる。

また、これをもとに、系統的に繋がりのある奏者に限って師弟関係の系統図を作成した（図は付録に示した）。録音の現存する弾き手のうち、分散オクターヴを採用している奏者は太字で示した。また、録音が残っていないが系統図を作成するために記述した人名はアスタリスク*で示した。

¹ ジャンルをクラシック音楽に限定した検索結果。なお、録音媒体については特に限定せず、すべての媒体を含めた。

² 「和音とは異なるピッチクラスの間隔が同時に響くことなので、オクターヴは和音ではない」という指摘が散見されるが、ここでは便宜的にオクターヴを和音の一種と定義することとする。なお、Whittall (2008) や Randel (2003) によれば、ピッチクラスとは「同じ音名を持った音の集合」とであると定義される。

³ 対象地域はアゼルバイジャン、アルバニア、アルメニア、ベラルーシ、ブルガリア、ジョージア、キルギスタン、ラトヴィア、リトアニア、モルドヴァ、ロシア、ルーマニア、セルビア、スロヴェニア、ウクライナ、エストニア、ウズベキスタン、チェコ、スロヴァキアとした。

⁴ Sofronitsky (1949) については音の鳴り方が微妙で、判断のわかれるところである。筆者の主観としてはかすかにアルペッジョの最初の音の残響が鳴っているように聞こえるため、ここでは表に含めることとした。

⁵ 録音年が不明なものについては、CD であれば出版年、ネット上の音源であればアップロード年を表記した。

奏者名	録音年
Vladimir Sofronitsky	1949
Cyril Smith	1950
Heinrich Neuhaus	1955
Leff Pouishnoff	1958
Stanislav Neuhaus	1959
Vera Razumovskaya	1959
Josef Páleníček	1959
Nikolai Orloff	1960's
Lev Oborin	1962
Isaac Mikhnovsky	1966
Oleg Boshniakovich	1969
Alexei Nsedkin	1977
Alexei Lubimov	1992
Lyudmila Ginzburg	1993
Vladimir Krainev	1994
Namik Sultanov	2005?
河村 尚子	2008
Boris Spaaski	2008
Yuri Bogdanov	2010
Miroslav Kultyshev	2010
Adi Neuhaus	2013
Nikolai Gangnus	2020
Evgeny Levitan	unknown

(図 1)

図 1 および付録の系統図に示したように、分散オクターヴの解釈はロシア系ピアニストに集中しているが⁶、Richter (1977) や Wirssaladze (1999) などのように、ロシア系であってもこの解釈を採用しない奏者もいる。S. Neuhaus の著名な門人である Andrei Nikolsky も分散オクターヴを弾いていない (Nikolsky, 1991)。また、

Lubimov (2019) や A. Neuhaus (2020) などのように、後から分散オクターヴの解釈をやめる者もいた。S. Neuhaus の実子には Stanislav Bunin がいるが、彼は分散オクターヴの解釈を採用していない (Bunin, 2004)。彼が師事した Sergei Dorensky の録音も残っているが、こちらについても同様である (Dorensky, 1970)。

邦人ではひとり河村 (2008) がおり、彼女は Krainev 門下である。図 1 のなかでロシア系ではない奏者は Smith (1950) と Páleníček (1959) の二者のみである。

Smith は英国出身で、Páleníček はチェコ出身である。Smith はピアノ奏法を Herbert Fryer に師事したが、ピアノロールを聴く限りでは Fryer は分散和音を採用していないようである (Fryer, 1916)。ピアノロールによる録音では Anna Essipova によるものがあるが、こちらも分散和音を採用していない (Essipova, 1906)⁷。

次に、IMSLP において閲覧可能な 13 版のなかで、冒頭の Cis オクターヴを分散和音に指定しているものは Klindworth & Scharwenka (1883) による版のみであった。これ以外の版では、Chopin (1846) による自筆譜を含めて分散和音の指定は一つも確認されなかった。

図 1 に示されたなかでは、Gangnus (2020) の師弟関係だけが不明である。これについて本人に直接たずねたところ、以下のような回答をいただいた。以下に本人の許可を得てロシア語の原文を引用し、簡単な英訳を添えた。

“Интересный вопрос! Если честно - не знаю!) Я очень люблю свободный,

⁶ ロシア国内では H. Neuhaus を直近の祖とする流派が最も支配的であり、次に多いのが Konstantin Igumnov 系のピアニストで、その後に Leonid Nikolayev などから出るレニングラード (サンクトペテルブルク) 系の流派が続く。

⁷ 付録の系統図にも示したが、Essipova は Pouishnoff と師弟関係にある。

романтический подход к интерпретации, Шопен сам бы наверняка был бы не против такой «вольности», тогда такое было принято, а вот абсолютно буквальное следование написанному в нотах, свойственное современным пианистам, кажется мне не вдохновляющим и не заслуживающим внимания! Конкретно эту ломаную октаву я ни у кого не копировал и вообще, когда я начинаю работать над произведением, я запрещаю себе слушать любые записи этого произведения, чтобы это не влияло на свободу моего выбора!” (Gangnus, 2026)

“Interesting question! Honestly, I don’t know! I love free romantic approach to interpretation, Chopin himself would certainly not have been against such “liberty”, as it was accepted at the time. But the absolute literal adherence to what is written in the notes, characteristic of modern pianists, seems to me uninspiring and not worthy of attention! I didn’t copy this particular broken octave from anyone, and in general, when I start working on a piece, I forbid myself from listening to any recordings of this piece, so that it doesn’t affect the freedom of my choice!” (Gangnus, 2026, translated from Russian)

Gangnus 本人の説明によれば、彼は新しい曲に取り組む際には、自らの独創性を損なうことを避けるために他人の録音を聴かないことにしているという。それゆえに、分

散オクターヴは彼自身の創意による解釈であり、師事した教師や他の演奏家からの影響ではないという (Gangnus, 2026)。

考 察

先に述べたように、分散オクターヴを採用する解釈はロシア系の奏者に集中していることが確認された。ロシア地域においてこの解釈が伝統として共有されていることは容易に推定されるが、その一方でロシア国内においてもこの解釈は少数派のようである。また、途中からこの解釈を捨てる者もあり、分散オクターヴを採用している同じ流派の中でも個人差がある。また、Gangnus (2020) のように誰からの影響も受けずに我流で分散オクターヴを編み出す者もいる。彼はロシア出身のピアニストであり、筆者の仮説ではロシア・ピアノズムからの影響によるものと予想されたが、彼自身の説明によれば誰からも影響を受けずに我流で編み出したものであるという。この事実は仮説と大きく対立するものであったが、その一方で、世界的に見ても特異な解釈が自然発生的に出現したことは注目に値する⁸。

本稿で示した奏者のなかでロシア出身ではないピアニストは Smith と Páleníček の二人のみである。Smith については、系統図に示されたように Ignaz Moscheles の代まで遡れば Heinrich Neuhaus と起源を同じくする。しかしながら、両者を結び付けるにはやや遠縁すぎるように思われ、信憑性に乏しい。他方で、Páleníček は系統的にロシアとの接点を確認できないが、チェコは地理的にロシアに隣接していることから、影響を受けた可能性が十分に考えられる。

⁸ なお、彼の自省するところによれば、“Кстати, подумал, что на мое решение сыграть ломаную октаву могла повлиять какая-то запись (например Генриха Нейгауза), прослушанная мной в детстве (у меня была пластинка с этой записью, это я помню, и помню что слушал ее)” (Gangnus, 2026). 「たとえば Heinrich Neuhaus などの録音を気づかぬうちに幼少期に聴いていて影響を受けた可能性は否定できない」という。また彼は、「実際にそれら (Neuhaus など) の録音が幼少期に家にあり、聴いていたことを覚えている」という。

ピアノロールによる演奏では Fryer と Essipova を本稿でとりあげた。これらはいずれも分散オクターヴを採用したものではなかったが、この記録は彼らの解釈を直接断定する根拠にはならない。なぜならピアノロールによる記録はミスタッチやテンポを修正することが当たり前におこなわれており、必ずしも信用に値しないからである。Essipova が分散オクターヴを採用していないことも、系統関係や地理的な観点からやや疑問が残る。断定することはできないが、ピアノロールとして出版される際に分散和音が修正されてしまった可能性がある。

楽譜に関しては、Klindworth & Scharwenka 以外の版では自筆を含めて分散和音を指定するものが一つもなかった。この点からも分散和音が主流の解釈ではないことがわかる。なお、Klindworth と Scharwenka はともにドイツ出身であるが、Scharwenka はポーランド系の子孫であり、生まれは現在のポーランドであるという (NAXOS MUSIC LIBRARY, accessed 2026)。ポーランドも地理的にはロシア地域に隣接しているため、Scharwenka もロシアから影響を受けた可能性がある。また、系統図によると Scharwenka は Carl Czerny の代まで遡れば Leonid Nikolayev などの流派と起源を同じくし、これも傍証の一つとなりうる⁹。

最後に、本研究の課題として次に述べるようなことが挙げられる。まず、現在の YouTube は検索精度にきわめて難があり、録音を網羅的に探すことが困難である。他に適当な手段が存在しないためやむを得ず YouTube をもちいたが、本来であれば極力これに依存しない方法をとるのがのぞましい。

また、文献の少なさも大きな問題である。本稿の研究分野では先行研究が存在せず、さらにこれについて述べた資料も確認

されていない。このことが、録音が残っていない時代までさかのぼって調査することを困難にしている。ロシア語の文献をあたれば未知の情報が得られる可能性もあるが、筆者の能力からいって現実的ではない。

さらに、Pachman の録音が確認できないことも大きな問題である。彼の舟歌の録音自体は現存するが、前半部分が大きく欠落しており、冒頭のオクターヴを確認することができない (Pachman, 1907)。彼は同時代のロシア周辺地域出身者ではもっとも著名なピアニストの一人であり、彼の録音が失われていることは音楽史上の大きな損失であるといえる。願わくは彼の録音の完全な形で発見されることが強く望まれる。

文 献

Chopin, F. (1846) “Barcarolle”.

https://s9.imslp.org/files/imglnks/usimg/a/a4/IMSLP775323-PMLP2633-933_Chopin_Fryderyk_1810-1849_Barcarolle_Fis-dur_pour_.pdf. Accessed 17th June 2026.

Discogs.

https://www.discogs.com/ja/search?q=chopin+barcarolle&type=all&page=6&genre_exact=Classical. Accessed 17th June 2026.

IMSLP. “Barcarolle, Op.60 (Chopin, Frédéric)”.

[https://imslp.org/wiki/Barcarolle,_Op.60_\(Chopin,_Frédéric\)](https://imslp.org/wiki/Barcarolle,_Op.60_(Chopin,_Frédéric)). Accessed 17th June 2026.

Klindworth, K. & Scharwenka, X. (1883)

“Barcarole. F. Chopin, Op. 60.”. *Oeuvres pour le piano*, Vol. 10: Various Pieces.

⁹ Scharwenka の師事した Kullak (1882) による校訂版も存在するが、こちらは分散オクターヴを採用していない。

- Augener.
https://vmirror.imslp.org/files/imglnks/usimg/9/96/IMSLP00631-Chopin_-_Barcarole,_Op_60.pdf. Accessed 17th June 2026.
- Kullak, T. (1882) “Barcarole”.
Klavierwerke. Instructive Ausgabe, Vol. XIII: Verschiedene Werke. (Translated by Parsons, A. R.) Schlesinger’sche Buch- und Musikhandlung.
https://s9.imslp.org/files/imglnks/usimg/8/89/IMSLP143206-PMLP02633-FChopin_Barcarolle,_Op.60_KullakEd.pdf. Accessed 19th June 2026.
- NAXOS MUSIC LIBRARY. “Xaver Scharwenka”.
<https://ml.naxos.jp/composer1/23030>. Accessed 17th June 2026.
- Randel, D M. ed. (2003). “Set Theory”,
The Harvard Dictionary of Music, p. 776. Belknap Press.
- Whittall, A. (2008) *The Cambridge Introduction to Serialism*. Cambridge University Press.
- Wikipedia. “日本のクラシック音楽のピアニスト”.
<https://ja.wikipedia.org/wiki/Category:日本のクラシック音楽のピアニスト>. Accessed 18th June 2026.
- Wikipedia. “Category:Uzbekistani classical pianists”.
https://en.wikipedia.org/wiki/Category:Uzbekistani_classical_pianists. Accessed 20th June 2026.
- Wikipedia. “Kategorie:Čeští klavíristé”.
https://cs.wikipedia.org/wiki/Kategorie:Čeští_klavíristé. Accessed 18th June 2026.
- Wikipedia. “Kategorie:Slovenští klavíristé”.
https://cs.wikipedia.org/wiki/Kategorie:Slovenští_klavíristé. Accessed 18th June 2026.
- Wikipedia. “Категория:Пианисты Азербайджана”.
https://ru.wikipedia.org/wiki/Категория:Пианисты_Азербайджана. Accessed 20th June 2026.
- Wikipedia. “Категория: Пианисты Албании”.
https://ru.wikipedia.org/wiki/Категория:Пианисты_Албании. Accessed 20th June 2026.
- Wikipedia. “Категория: Пианисты Армении”.
https://ru.wikipedia.org/wiki/Категория:Пианисты_Армении. Accessed 20th June 2026.
- Wikipedia. “Категория: Пианисты Беларуси”.
https://ru.wikipedia.org/wiki/Категория:Пианисты_Беларуси. Accessed 20th June 2026.
- Wikipedia. “Пианисты Болгарии”.
https://ru.wikipedia.org/wiki/Категория:Пианисты_Болгарии. Accessed 20th June 2026.
- Wikipedia. “Категория:Пианисты Грузии”.
https://ru.wikipedia.org/wiki/Категория:Пианисты_Грузии. Accessed 20th June 2026.
- Wikipedia. “Категория: Пианисты Казахстана”.
https://ru.wikipedia.org/wiki/Категория:Пианисты_Казахстана. Accessed 20th June 2026.

Wikipedia. “Категория: Пианисты Кыргызстана”.

https://ru.wikipedia.org/wiki/Категория:Пианисты_Кыргызстана. Accessed 20th June 2026.

Wikipedia. “Категория: Пианисты Латвии”.

https://ru.wikipedia.org/wiki/Категория:Пианисты_Латвии. Accessed 20th June 2026.

Wikipedia. “Категория: Пианисты Литвы”.

https://ru.wikipedia.org/wiki/Категория:Пианисты_Литвы. Accessed 20th June 2026.

Wikipedia. “Категория: Пианисты Молдовы”.

https://ru.wikipedia.org/wiki/Категория:Пианисты_Молдовы. Accessed 20th June 2026.

Wikipedia. “Категория:Пианисты России”.

https://ru.wikipedia.org/wiki/Категория:Пианисты_России. Accessed 18th June 2026.

Wikipedia. “Категория: Пианисты Румынии”.

https://ru.wikipedia.org/wiki/Категория:Пианисты_Румынии. Accessed 20th June 2026.

Wikipedia. “Категория: Пианисты Сербии”.

https://ru.wikipedia.org/wiki/Категория:Пианисты_Сербии. Accessed 20th June 2026.

Wikipedia. “Категория: Пианисты Словении”.

https://ru.wikipedia.org/wiki/Категория:Пианисты_Словении. Accessed 20th June 2026.

Wikipedia. “Категория: Пианисты Украины”.

https://ru.wikipedia.org/wiki/Категория:Пианисты_Украины.

Пианисты_Украины. Accessed 20th June 2026.

Wikipedia. “Категория: Пианисты Эстонии”.

https://ru.wikipedia.org/wiki/Категория:Пианисты_Эстонии. Accessed 20th June 2026.

録音資料

河村尚子 (2008) 「夜想〜ショパンの世界/河村尚子デビュー」 RCA.

Bogdanov, Y. (2010) “Yuri Bogdanov plays Chopin”. Classical Records.

Boshniakovich, O. (1969) “CHOPIN: BARCAROLLE, MAZURKAS, POLONAISES, BALLADE No. 4”. DENON.

Bunin, S. (2004) “Chopin: National Edition I - Preludes Barcarolle”. BeArTon.

Dorensky, S. (1970) “Репетиция. Играет Сергей Доренский (1970)”.
https://www.youtube.com/watch?v=qdSХowPpH_M.

Essipova, A. (1906) “ANNA ESSIPOVA plays Chopin, Verdi-Liszt, Schumann, d’Albert and Thalberg”. Sakuraphon.

Fryer, H. (1916) “Barcarolle, op 60. - Fryer (Chopin) Duo-Art”.
<https://www.youtube.com/watch?v=NhiKfQ2w2Z0>. Accessed 17th June 2026.

Gangnus, N. (2020) “chopin barcarolle op. 60”.
<https://www.youtube.com/watch?v=pYLhbAeFlRs>. Accessed 17th June 2026.

Ginzburg, L. (1993) “Ludmila Ginsburg Piano Recital Freiburg Germany 1993 Nov 30 complete”.

- https://www.youtube.com/watch?v=_NjqNkgvKB8. Accessed 17th June 2026.
- Kraïnev, V. (1994) "Vladimir Kraïnev plays Chopin Barcarolle, Scherzo 1, Mazurkas, Polonaise - video 1994".
<https://www.youtube.com/watch?v=ivEPWwlgHvE>. Accessed 17th June 2026.
- Kultyshëv, M. (2010) "Chopin: Ballade in F Minor, Nocturnes in E-Flat Major, A-Flat Major, Barcarolle, Mazurkas Op. 30". The Fryderyk Chopin Institute.
- Levitan, E. (date unknown) "Evgeny Levitan plays F.Chopin (live)".
<https://www.youtube.com/watch?v=1rIV1GAexfw>. Accessed 17th June 2026.
- Lubimov, A. (1992) "CHOPIN: 4 BALLADES, BARCAROLLE / FANTAISIE / BERCEUSE". ERATO.
- Lubimov, A. (2019) "At Chopin's Home Piano". The Fryderyk Chopin Institute.
- Mikhnovsky, I. (1966) "Chopin:Piano Works -Rondo Op.1/Rondo a la Mazurka Op.5/Mazurka Op.6-1/etc (1966-68)". Melodiya.
- Nasedkin, A. (1977) "FREDERIC CHOPIN - PIANO WORKS - ALEKSEY NASEDKIN".
<https://www.youtube.com/watch?v=hGnFyLLdC90>. Accessed 17th June 2026.
- Neuhaus, A. (2013) "Chopin Barcarolle, Adi Neuhaus,".
<https://www.youtube.com/watch?v=bVNtyUX4YFA>. Accessed 17th June 2026.
- Neuhaus, A. (2020) "Classical Music Piano Adi Neuhaus Online Piano Recital".
<https://www.youtube.com/watch?v=hwbYqInf8k>. Accessed 17th June 2026.
- Neuhaus, H. (1955) "Neuhaus plays Chopin". Russian DISC.
- Neuhaus, S. (1959) "Stanislav Neigauz volume 4 Frederic CHOPIN". VISTA VERA.
- Nikolsky, A. (1991) "24 Preludes Op. 28 • Barcarolle Op. 60 • Piano Sonata No. 2 Op. 35 "Funeral March". ARTE NOVA.
- Oborin, L. (1962) "Lev Oborin • Concerts in Germany & France 1951-1966 • 2CD". Melo Classic.
- Orloff, N. (early 1960's) "Nikolaj Orloff plays Chopin Barcarolle op.60".
<https://www.youtube.com/watch?v=hgaGMsdIpAI>. Accessed 17th June 2026.
- Pachman, V. D. (1907) "PIANO G AND Ts (THE), Vol. 1 - Recordings from the Gramophone and Typewriter era (Michałowski, Pachmann, Ronald) (1900-1907)". APR.
- Páleníček, J. (1959) "Chopin: Berceuse, Op. 57, Barcarolle, Op. 60 & Fantaisie, Op. 49 (Mono Version)". BNF Collection.
- Pouishnoff, L. (1958) "Piano Recital: Pouishnoff, Lev - BACH, J.S. / BEETHOVEN, L. van / SCHUBERT, F. / LISZT, F. (The Complete 78-rpm and Selected Saga LP Recordings)". APR.
- Razumovskaya, V. (1959) "Chopin Recital, Leningrad 1959". AURORA.
- Richter, S. (1977) "Richter Archives, Vol. 2: Chopin Recitals 1954-1977 (Live)". DOREMI.
- Smith, C. (1950) "SMITH, Cyril: Solo Recordings (Complete) (1929-1951)". APR.

- Sofronitsky, V. (1949) "The Legendary 1949 Chopin Recitals". DENON.
- Spaaski, B. (2008) "Boris Spaaski plays Chopin". Classical Records.
- Sultanov, N. (2005) "M. Mussorgsky - Pictures at An Exhibition & F. Chopin". Label unknown (probably private publication).
- Wirssaladze, E. (1999) "Chopin & Liszt: Elisso in Japan". Live Classics.

系統図作成に用いた資料

- Boris Spaaski. "Biography".
<https://spasski.com/biographie/?lang=en>. Accessed 17th June 2026.
- claccical-pianists.net. "Galina Fedorova".
<https://classical-pianists.net/ix/galina-fedorova/>. Accessed 18th June 2026.
- Namik Sultanov — Official Website. "About Namik Sultanov".
<https://namiksultanov.com/about>. Accessed 17th June 2026.
- Międzynarodowy Festiwal Pianistyczny Królewskiego Miasta Krakowa "Yuri Bogdanov".
<https://www.cracowpianofestival.com/yuri-bogdanov-2/>. Accessed 17th June 2026.
- NAXOS MUSIC LIBRARY. "Lev Pouishnoff".
<https://ml.naxos.jp/artist/71794>. Accessed 17th June 2026.
- NAXOS MUSIC LIBRARY. "Vladimir Sofronitsky".
<https://ml.naxos.jp/artist/43886>. Accessed 17th June 2026.

- Saint Petersburg Music House. "Alexander Sandler".
<https://eng.spdm.ru/alexander-sandler>. Accessed 18th June 2026.
- Wikipedia. "カール・チェルニー".
<https://ja.wikipedia.org/wiki/カール・チェルニー>. Accessed 18th June 2026.
- Wikipedia. "Alexandre Dubuque".
https://en.wikipedia.org/wiki/Alexandre_Dubuque. Accessed 18th June 2026.
- Wikipedia. "Cyril Smith (pianist)".
[https://en.wikipedia.org/wiki/Cyril_Smith_\(pianist\)](https://en.wikipedia.org/wiki/Cyril_Smith_(pianist)). Accessed 18th June 2026.
- Wikipedia. "Ernst Rudorff".
https://en.wikipedia.org/wiki/Ernst_Rudorff. Accessed 18th June 2026.
- Wikipedia. "Franklin Taylor".
https://en.wikipedia.org/wiki/Franklin_Taylor. Accessed 18th June 2026.
- Wikipedia. "Herbert Fryer".
https://en.wikipedia.org/wiki/Herbert_Fryer. Accessed 18th June 2026.
- Wikipedia. "Leopold Godowsky".
https://en.wikipedia.org/wiki/Leopold_Godowsky. Accessed 18th June 2026.
- Wikipedia. "Miroslav Kultyshev".
https://en.wikipedia.org/wiki/Miroslav_Kultyshev. Accessed 17th June 2026.
- Wikipedia. "Muzio Clementi".
https://en.wikipedia.org/wiki/Muzio_Clementi. Accessed 18th June 2026.
- Wikipedia. "Nikolai Zverev".
https://en.wikipedia.org/wiki/Nikolai_Zverev. Accessed 18th June 2026.
- Wikipedia. "Нейгауз, Генрих Густавович".
https://ru.wikipedia.org/wiki/Нейгауз,_Г

енрих_Густавович. Accessed 17th June 2026.

Wikipedia. “Нейгауз, Станислав Генрихович”.

https://ru.wikipedia.org/wiki/Нейгауз,_Станислав_Генрихович. Accessed 17th June 2026.

Wikipedia. “Николаев, Леонид Владимирович (пианист)”.

[https://ru.wikipedia.org/wiki/Николаев,_Леонид_Владимирович_\(пианист\)](https://ru.wikipedia.org/wiki/Николаев,_Леонид_Владимирович_(пианист)). Accessed 18th June 2026.

Wikipedia. “Игумнов, Константин Николаевич”.

https://ru.wikipedia.org/wiki/Игумнов,_Константин_Николаевич. Accessed 17th June 2026.

Wikipedia. “Лешетицкий, Теодор”.

https://ru.wikipedia.org/wiki/Лешетицкий,_Теодор. Accessed 18th June 2026.

ZINN ARTISTS. “Adi Neuhaus — Zinn Artists”.

<https://www.zinnartists.com/artists/adi-neuhaus>. Accessed 17th June 2026.

Музичний Світ України. “Ginzburg Lyudmila Naumovna”. <https://musical-world.com.ua/en/artists/ginzburg-lyudmila-naumovna/>. Accessed 17th June 2026.

Официальный сайт семьи Нейгаузов.

“Генрих Станиславович Нейгауз”
<https://neuhaus.mariars.com/gs/>. Accessed 17th June 2026.

別刷請求先：〒049-3514 北海道山越郡

長万部町富野 302 番 1 号
宇野音楽大学 露楽研究室
倉尾孝志

【付 録】

A M^{me} la Baronne de Stockhausen.

Barcarole.

Allegretto. F. Chopin, Op. 60.

Klindworth & Scharwenka (1883) による舟歌のスコア。初頭のオクターヴの部分に分散和音の指示が書き込まれている (Klindworth & Scharwenka, 1883: 1)。

系統図。録音が残っている奏者のうち、分散オクターヴを採用している者は太字で示した。また、録音が残っていない奏者はアスタリスク*で示した。なお、Heinrich Stanislavovich Neuhaus (Heinrich Neuhaus Jr. とも。) は Stanislav の息子であり、Adi の父である (Bunin とは異母兄弟にあたる)。

